

## 日本小児感染症学会若手会員研修会第5回福島セミナー

## グループワークへの講評と授賞内容のご紹介

小田 慈\* 堤 裕幸\* 森内 浩幸\*

今回のグループワークの発表に際して、堤理事長、小田委員および森内の3人が合議して、それぞれのグループへの講評をまとめ、また全グループに賞を与えましたので、以下ご紹介いたします(森内が他のお二方のメモをいただき、できるだけ全員のコメントを盛り込むようにまとめてみましたが、必ずしもそれがうまくいってなかったらご免なさい)。

## グループA：PCV7・Hib ワクチン普及後の肺炎球菌・Hib 感染症の変化

## 「笑いをとったで賞」

テーマをいくつかのパートに分け、それぞれについての文献検索や検討もよかったのですが、最後のまとめやグループとして発信したいメッセージが少しぼやけました。発表者のプレゼンは上手でしたが、緊張のあまりの所業が受け狙いではない笑いを巻き起こしていました。

## グループB：どうして子どもは中耳炎になりやすいのか？

## 「Group of the (Y)ear 賞」

聴衆との間に interactive なやりとりを組み入れたプレゼンが大変見事でした。豊富な資料もきちんとまとめ上げていて、耳鼻咽喉科との連携の重要性も含め、説得力のあるまとめを行い、しっかりとした Take Home Message を送ってくれました。

## グループC：ムンプスワクチンは本当に必要か？

## 「小児感染症学会理事長賞」

聴衆との interactive なやりとりも交えながら、ムンプスワクチンの定期接種化の必要性を訴えました。ワクチン副反応としての無菌性髄膜炎の理解や捉え方に深みが足りなかったかもしれません。

## グループD：健常小児の水痘に対する抗ウイルス薬の使用

## 「Over 50 賞」

セミナー参加者へのアンケート調査の結果も盛り込んで、臨場感のあるプレゼンを行ってくれました。本大会のキーワードとなった(?) over 50 と若い世代の経験や意識の違いも、まざまざとみせつけた内容でした。さらに日米の違いや教科書のスタンダードにも言及するなど、興味深いものでした。

## グループE：渡航医学

## 「野口英世賞」および今年のグランプリ

グループのメンバー全員参加の寸劇風のプレゼンで熱演し、聴衆を惹きつけました。特に土地柄、野口英世博士を登場させて渡航医学の重要性を訴えるのに成功しました。反面、資料の提示などには乏しかった印象もありますが、テーマの性格上しかたなかったかと思われます。他のグループの発表に対しても、積極的に質問していました。

\* 審査委員 (五十音順)

## グループ F：外来での抗菌薬の適正使用を前向きに考える

### 「全員参加全力投球賞」

このグループは、他のグループの発表に際しても全員が幾度も質問をするなど、積極性が目立ちました。プレゼンにも全員が参加し、資料の提示、構成、結論の導き方にも説得力があり、全体にわかりやすく熱意のある発表でした。メッセージ性

も強かった一方、若干個人的ドグマが感じられる部分もありました。

今回はその場での思いつき (!) で講評をまとめ、賞を与えることにしましたので、賞状や副賞の準備も何もありませんでした。でも次回からは豪華粗品 (?) の副賞も準備したいと思います。張り切って準備して、インパクトのある発表をお願いします!

\* \* \*